

みんなのためのボランティア

田崎小 五年 畠井 瑞季

「私は、今日から五年生だ。五年生は、委員会やボランティアをしないといけないのか。始業式の日に思った。その時正直私は「ボランティアアめんどくさいな」と思った。なぜなら、毎朝いつもより早く来て夏は暑い中、冬は寒い中、ボランティアをしないといけないんだと感じたからだ。

始業式から何日か経って、ボランティアが始まった。五、六年生は、前庭の清掃や正門下のあいさつ運動などを中心にしている。「ボランティアアめんどくさいな」という気持ちがあ、たけど、委員会以外の日は毎朝、ボランティアをしに行った。でも、ボランティアはなれ始めた六月ごろ、「ボランティアアめんどくさいな」という気持ちで、またわき上がった。その日、毎朝出来ていたボランティアをさぼってしまった。すると、先生が教室に来て、「なんでボランティア行っていないの。五

六年生は特に、この学校を支えていかないと
いけないんだよ。五年生がそれ下いいの。」と
怒られた。私は、「ハッ」とした。なぜなら、「五
年生は、この学校を支えていかないといい
ない。また、六年生になつた時に五年生が見
るすがたがこんなの下いいのかな。」と思つ
たからだ。その後私たちは、急いで、八時二
十分までボランティアをしに行つた。でも、
自分からボランティアをするより、言われて
やるボランティアの方が、やろうという気持
ちが薄れた。ボランティアめんどくさいな」
という気持ちより、やろうという気持ちがも
つと薄れたのは、自分でもおどろいた。でも、
その日で、「自分から行動することの方が楽し
いのかもしい」と感じた。

今では、「ボランティアが楽しい。もつとや
りたい。」毎朝の少いボランティアの時間だ
けでも、この学校をきれいにしたい。」と思つ
ようになつた。また、ボランティアは、学校
もきれいになるし、みんなの気持ちもきれい

になる。これからは、学校下のボランティ
アだけでなく、地いきでのボランティアもした
いと思う。みんなには、人から言われたのボ
ランティアより、自分からやりたいと思うボ
ランティアを楽しくしてほしいと思う。